

第142回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 固定資産の売却に関する問題である。減価償却費の記帳方法が直接法である点に注意が必要である。
- 備品の期首簿価：360,000円（取得原価）－360,000円÷6年（耐用年数）×4年（平成23年1月～平成26年12月）＝120,000円
- 当期の減価償却費：360,000円÷6年（耐用年数）×3ヶ月（平成27年1月～平成27年3月）/12ヶ月＝15,000円
- 固定資産売却損：{120,000円（期首簿価）－15,000円（当期の減価償却費）－80,000円（売却金額）}＝25,000円
2. 給料の支払い時に関する問題である。本人負担の社会保険料は、社会保険料預り金勘定で処理し、所得税の源泉徴収分は、社会保険料預り金勘定で処理する。
3. 貸付金の回収に関する問題である。借用証書による貸し付けは、貸付金勘定で処理される点に注意が必要である。
- 受取利息：400,000円×4.5%×9ヶ月/12ヶ月＝13,500円
4. 有価証券の売却に関する問題である。有価証券の売却に関する手数料は、指示はないが、勘定科目の一覧に支払手数料勘定がないため、有価証券の売却損益に含めて処理することになる。
5. 現金実査に関する問題である。現金実査を行うに際し、まず、現金の範囲を理解しているかが本問のポイントとなる。本問における現金は、紙幣、硬貨、得意先振出しの小切手となる。そのうえで、現金の実際有高に修正する仕訳が解答の仕訳となる。
- 現金実際有高：100,000円（紙幣）＋5,800円（硬貨）＋10,000円（他人振出しの小切手）＝115,800円

第2問

商品有高帳の作成に関する問題である。本問では、A商品のみが記帳の対象になっている点および、売上値引きは、売価の修正であり、原価の修正ではないため、商品有高帳には記帳されないことに注意が必要である。記入方法については、解答参照。

第3問

合計試算表の作成する問題である。以下、仕訳を示す。

1. 仕訳

4日	(借) 支 払 家 賃	18,000	(貸) 前 払 家 賃	18,000
7日	(借) 仕 入	132,000	(貸) 前 払 金	30,000
			(〃) 買 掛 金	100,000
			(〃) 現 金	2,000
	※当店負担の仕入に係る付随費用は、商品の取得原価に参入する。			
9日	(借) 仕 入	180,000	(貸) 当 座 預 金	180,000
10日	(借) 支 払 手 形	200,000	(貸) 当 座 預 金	120,000
			(〃) 当 座 借 越	80,000
	※当座借越になるため、注意が必要である。			
	当座預金残高：300,000円（前期末貸借対照表の当座預金）－180,000円（9日）＝120,000円			
11日	(借) 現 金	200,000	(貸) 売 上	400,000
	(〃) 売 掛 金	200,000		
	(借) 発 送 費	3,000	(貸) 現 金	3,000
13日	(借) 売 上	10,000	(貸) 売 掛 金	10,000
14日	(借) 当 座 借 越	80,000	(貸) 現 金	205,000
	(〃) 当 座 預 金	125,000		
	※当座借越がある場合には、まず、当座借越から返済し、その後当座預金の増加を認識する。また、配当金領収書については、前期の配当金領収書であるため、前期の会計期間中に受取配当金の計上が行われている。			
16日	(借) 仕 入	200,000	(貸) 受 取 手 形	100,000
			(〃) 支 払 手 形	100,000
17日	(借) 備 品	120,000	(貸) 未 払 金	120,000
	※備品の購入に関する未払は、主たる営業取引（商品売買）により生じるものではないため、未払金勘定で処理する。			
20日	(借) 当 座 預 金	500,000	(貸) 売 掛 金	620,000
	(〃) 受 取 手 形	120,000		
25日	(借) 買 掛 金	300,000	(貸) 当 座 預 金	300,000
	(借) 給 料	120,000	(貸) 所 得 税 預 り 金	6,000
			(〃) 当 座 預 金	114,000
	(借) 水 道 光 熱 費	7,000	(貸) 当 座 預 金	30,000
	(〃) 通 信 費	14,000		
	(〃) 資 本 金	9,000		

2. 解答の金額（ ）内は日付を示す。

- ▼ 現金借方金額：274,000 円（前期末貸借対照表の現金）+200,000 円（11 日）=474,000 円
- ▼ 現金貸方金額：2,000 円（7 日）+3,000 円（11 日）+205,000 円（14 日）=210,000 円
- ▼ 当座預金借方金額：300,000 円（前期末貸借対照表の当座預金）+125,000 円（14 日）+500,000 円（20 日）=925,000 円
- ▼ 当座預金貸方金額：180,000 円（9 日）+120,000 円（10 日）+300,000 円（25 日）+114,000 円（25 日）+30,000 円（25 日）=744,000 円
- ▼ 受取手形借方金額：300,000 円（前期末貸借対照表の受取手形）+120,000 円（20 日）=420,000 円
- ▼ 受取手形貸方金額：100,000 円（16 日）
- ▼ 売掛金借方金額：640,000 円（前期末貸借対照表の売掛金）+200,000 円（11 日）=840,000 円
- ▼ 売掛金貸方金額：10,000 円（13 日）+620,000 円（20 日）=630,000 円
- ▼ 前払金借方金額：30,000 円（前期末貸借対照表の前払金）
- ▼ 前払金貸方金額：30,000 円（7 日）
- ▼ 繰越商品借方金額：180,000 円（前期末貸借対照表の繰越商品）
- ▼ 前払家賃借方金額：18,000 円（前期末貸借対照表の前払家賃）
- ▼ 前払家賃貸方金額：18,000 円（4 日）
- ▼ 備品借方金額：480,000 円（前期末貸借対照表の備品）+120,000 円（17 日）=600,000 円
- ▼ 支払手形貸方金額：350,000 円（前期末貸借対照表の支払手形）+100,000 円（16 日）=450,000 円
- ▼ 支払手形借方金額：200,000 円（10 日）
- ▼ 買掛金貸方金額：390,000 円（前期末貸借対照表の買掛金）+100,000 円（7 日）=490,000 円
- ▼ 買掛金借方金額：300,000 円（25 日）
- ▼ 未払金貸方金額：120,000 円（17 日）
- ▼ 所得税預り金貸方金額：6,000 円（25 日）
- ▼ 貸倒引当金貸方金額：22,000 円（前期末貸借対照表の貸倒引当金）
- ▼ 備品減価償却累計額貸方金額：160,000 円（前期末貸借対照表の備品減価償却累計額）
- ▼ 当座借越貸方金額：80,000 円（10 日）
- ▼ 当座借越借方金額：80,000 円（14 日）
- ▼ 資本金貸方金額：1,000,000 円（前期末貸借対照表の資本金）+300,000 円（前期末貸借対照表の当期純利益）=1,300,000 円
- ▼ 資本金借方金額：9,000 円（25 日）
- ▼ 売上貸方金額：400,000 円（11 日）
- ▼ 売上借方金額：10,000 円（13 日）
- ▼ 仕入借方金額：132,000 円（7 日）+180,000 円（9 日）+200,000 円（16 日）=512,000 円
- ▼ 給料借方金額：120,000 円（25 日）
- ▼ 支払家賃借方金額：18,000 円（4 日）
- ▼ 発送費借方金額：3,000 円（11 日）
- ▼ 水道光熱費借方金額：7,000 円（25 日）
- ▼ 通信費借方金額：14,000 円（25 日）

第4問

伝票とは、取引の記録（仕訳）を行う紙片であり、仕訳帳の代わりに用いられるものである。なお、各伝票の使用方法は下記のとおりである。

1. 入金伝票
- 入金取引を記入する伝票であり、仕訳上の借方が「現金」となる場合に用いる。入金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の貸方科目となる。したがって、当座預金は入金伝票には記載されない。

2. 出金伝票
- 出金取引を記入する伝票であり、仕訳上の貸方が「現金」となる場合に用いる。出金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の借方科目となる。したがって、当座預金は出金伝票には記載されない。

3. 振替伝票
- 入金伝票および出金伝票以外の取引を記入する伝票である。
- 以下各問いの解答を示す。

(1) 商品の販売

① 振替伝票

(借)	売	掛	金	600,000	(貸)	売	上	600,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---------

② 入金伝票

(借)	現	金	300,000	(貸)	売	掛	金	300,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

※ 振替伝票に 600,000 円と記載されているため、まず振替伝票において、商品の販売代金を掛けにて計上する。その後、現金回収額を掛け代金の回収として、入金伝票により処理する。

(2) 備品の購入

① 出金伝票

(借)	記	入	な	し	(貸)
-----	---	---	---	---	-----

② 振替伝票

(借)	備	品	202,000	(貸)	当	座	預	金	202,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

※ 出金取引を記入する伝票であり、仕訳上の貸方が「現金」となる場合に用いる。したがって、当座預金は出金伝票には記載されない。

第5問

(1) 仮払金の処理

① 整理仕訳

(借) 租 税 公 課	2,000	(貸) 仮 払 金	2,000
-------------	-------	-----------	-------

② 解答の金額

▼ 租税公課：6,000円（整理前試算表租税公課）＋2,000円＝8,000円

(2) 掛代金の回収

① 整理仕訳

(借) 当 座 預 金	13,000	(貸) 売 掛 金	13,000
-------------	--------	-----------	--------

② 解答の金額

▼ 当座預金：65,000円（整理前試算表当座預金）＋13,000円＝78,000円

▼ 売掛金：73,000円（整理前試算表売掛金）－13,000円＝60,000円

(3) 売上原価の算定（売上原価勘定での算定）

① 整理仕訳

(借) 売 上 原 価	50,000	(貸) 繰 越 商 品	50,000
(借) 売 上 原 価	560,000	(貸) 仕 入	56,000
(借) 繰 越 商 品	35,000	(貸) 売 上 原 価	35,000

② 解答の金額

▼ 売上原価：50,000円（整理前試算表繰越商品）＋560,000円（整理前試算表仕入）－35,000円＝575,000円

※ 繰越商品は貸借対照表上、商品として表示する。

(4) 備品の減価償却費

① 整理仕訳

(借) 減 価 償 却 費	15,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	15,000
---------------	--------	-----------------------	--------

② 解答の金額

▼ 減価償却累計額：45,000円（整理前試算表備品減価償却累計額）＋15,000円＝60,000円

(5) 貸倒引当金の設定

① 整理仕訳

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	600	(貸) 貸 倒 引 当 金	600
-------------------	-----	---------------	-----

② 解答の金書き

▼ 貸倒引当金：600円（整理前試算表貸倒引当金）＋600円＝1,200円

(6) 家賃の繰延べ

① 整理仕訳

(借) 前 払 家 賃	4,000	(貸) 支 払 家 賃	4,000
-------------	-------	-------------	-------

② 解答の金額

▼ 支払家賃：52,000円（整理前試算表支払家賃）－4,000円＝48,000円

※ 前払家賃は貸借対照表上、前払費用として表示する。

(7) 給料の見越し

① 整理仕訳

(借) 給 料	6,000	(貸) 未 払 給 料	6,000
---------	-------	-------------	-------

② 解答の金額

▼ 給料：62,000円（整理前試算表給料）＋6,000円＝68,000円

※ 未払給料は貸借対照表上、未払費用として表示する。